

[課題演習概要]

I C Tを活用した総合的な学習の時間におけるコミュニケーション能力の育成
—離島教育での活用の視点から—浦 敬 太
Keita URA福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
教職教育高度実践力プログラム

(2023 年 1 月 10 日受理)

キーワード： 離島教育， I C T， コミュニケーション能力， 教育格差， 文化学習， 総合的な学習の時間

1 研究の目的

日本の離島教育には，本土の教育と比較し，少人数学校が多いため，コミュニケーション能力の獲得のしづらさや，集団活動への不適応，保護者も含めた競争意識の低さによる学力格差などの厳しい現状がある。実際に，『離島における教育の実情と課題』(1)において，原田らは，「離島における教育には，へき地にあり文化的・人的資源に恵まれない，小規模であるために成員の流動性が低く友人関係や序列が固まりやすい，いい意味での競争がない，複式授業では十分な教育ができない，などのマイナス面が伴うことが多く指摘される。」と述べている。私自身，離島から本土の学校へ転校した際，新しい環境への適応の難しさや，離島と本土の学校の学力格差などを，身をもって実感した。その経験も踏まえ私は，このような離島の学校と，本土の学校の子どもたちの教育格差を解消する必要があると考えた。そして，その格差の根本的な要因の1つとして，子どもたちが学校内において，関わるができる人の少なさや，友人関係や序列の固定化から生じる，コミュニケーション能力の低さがあるのではないかと私は推察した。本研究では，その格差を，I C Tを用いた総合的な学習の時間における文化交流の共同授業によって，解消することができないか，またその効果的な手法にはどういったものがあるかを明らかにしていくことを目的とする。

2 研究の計画

本研究の計画としては，①既存のカリキュラムで行われている文化学習を進めると同時に，離島教育の現状について，アンケート調査を行う。②離島と本土と異なる環境にある2つの中

学校を，I C Tを用いて繋ぎ，互いにふるさと学習について発表を行った後，交流を行う。

(11月25日)の流れで進め，事前事後アンケートにて，生徒のコミュニケーション能力の向上を見取る。また，離島と本土かつ，異なる県の中学校間における繋がり構築及び，生徒が自分たちのふるさとの素晴らしさに気づくことにも繋げていく。

3 研究の内容

(1) コミュニケーション能力の定義

また，本研究におけるコミュニケーション能力の定義は，3つの文献⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾を参考に，以下のように定義した。

他者との関わり合いの中で，対話を通じて的確な情報を共有し，相互関係を深めながら，その場面において，適切かつ効果的な関わり合いを実現し，必要とされる合意形成や課題解決，関係性の構築に向けて，柔軟に対応する能力

(2) 研究対象及びふるさと学習の内容

学校名	福岡県宗像市立 A 中学校	長崎県五島市立 B 中学校
生徒数	86人	95人
ふるさと 学習	宗像・沖ノ島と関連遺産群 について	私たちの地元 五島列島の魅力について

(3) 実践内容

単元	総合的な学習の時間	
内容	交流ふるさと学習	
ふるさと 学習の 内容	A 中学校	宗像・沖ノ島と関連遺産群 さつき松原海岸清掃活動 について
	B 中学校	ふるさと五島について
事前準備 及び 手立て	○事前事後アンケート(生徒・教師向け)及び，離島教育の現状についての事前アンケート調査(教員・保護者向け)の実施 ○「ふるさと」を共通テーマとすることで，互いのふるさとの文化の違いや，自分のふるさとの素晴らしさに気づききっかけとする ○事前アンケートで聞き取りした内容をもとに，交流する時間を確保し，互いの生活の違いや共通点に気づくことができるようにする ○両中学校に授業者自身が足を運ぶことで，あらかじめ生徒との関係を築いておく	

(4) 評価法

ルーブリック評価法を取り入れたアンケートシート(四段階評価)を以下のように作成した。
※tendency:①②の回答が過半数の場合(BAD)，③④の回答が過半数の場合(GOOD)とする

生徒向け事前アンケート (対象生徒51名)	1.自分が知っている、もしくは調べたことなどを、誰かに伝えることができますか？	2.他の人の意見を共感しながら聞くことができますか？	3.他の人の意見を聞いて、自分なりに理解することができますか？
proportion of ①&②	62.96%	74.51%	80.39%
proportion of ③&④	37.04%	25.49%	19.61%
tendency	BAD	BAD	BAD
	4.人と交流することは好きですか？また、それはなぜですか？	5.自分たちのふるさとに誇りや素晴らしさを感じますか？また、それはなぜですか？	
proportion of ①&②	56.86%	3.92%	
proportion of ③&④	43.14%	96.08%	
tendency	BAD	GOOD	

図 1 生徒向け事前アンケート (対象 51 名)

生徒向け事後アンケート (対象生徒47名)	1.自分が知っている、もしくは調べたことなどを、誰かに伝えることができますか？	2.他の人の意見を共感しながら聞くことができますか？	3.他の人の意見を聞いて、自分なりに理解することができますか？
proportion of ①&②	60.87%	89.36%	53.19%
proportion of ③&④	39.13%	10.64%	46.81%
tendency	BAD	BAD	BAD
	4.人と交流することは好きですか？また、それはなぜですか？	5.自分たちのふるさとに誇りや素晴らしさを感じますか？また、それはなぜですか？	6.今回のような他の中学校と繋いだ交流学習をこれからもやってみたいと思いますか？
proportion of ①&②	42.55%	4.26%	2.13%
proportion of ③&④	57.45%	95.74%	97.87%
tendency	GOOD	GOOD	GOOD

図 2 生徒向け事後アンケート (対象 47 名)

また、妥当性と客観性を持たせることを目的に、教師側から見た生徒の変容についても、以下のようなアンケートを行った。

教員向け事後アンケート (対象教員5名)	1.本活動が、子どもたちの学びに繋がったと思いますか？	3.本活動を通して、子どもたちの様子に変化が見られましたか？	8.可能であれば、今回のような活動をこれからも続けていきたいと思いませんか？
proportion of ①&②	0%	0%	0%
proportion of ③&④	100%	100%	100%
tendency	GOOD	GOOD	GOOD

図 3 教員向け事後アンケート (対象 5 名)

さらに、本研究に取り組むにあたり、離島教育の現状を調べるべく、保護者、教員を対象にアンケート調査を行った。

	1.島の中で生活する中で、人生経験の少なさを感じ、結果として子どもの成長に制限があるように感じる	3.島での学校教育にメリットを感じる	5.島での学校教育にデメリットを感じる
proportion of ①&②	81.25%	75%	75%
proportion of ③&④	18.75%	25%	25%
tendency	BAD	BAD	BAD
	7.ふるさとの歴史や文化に触れる、学ぶ機会が減ったと感じますか？	8.ふるさとの歴史や文化について触れる、学ぶ機会が必要だと思いますか？	9.将来子どもたちが島を出て進学や就職していくことへの不安や心配を感じる
proportion of ①&②	37.5%	87.5%	43.75%
proportion of ③&④	62.5%	12.5%	56.25%
tendency	GOOD	BAD	GOOD

図 4 離島保護者向けアンケート調査 (対象 16 名)

	1.協調性や社会性が乏しい	2.表現力が乏しい	3.関心が乏しい	4.コミュニケーション能力が乏しい
proportion of ①&②	44.44%	77.78%	44.44%	66.67%
proportion of ③&④	55.56%	22.22%	55.56%	33.33%
tendency	GOOD	BAD	GOOD	BAD
	5.人間関係の固定化が見られる	6.集団でのリーダーシップを取れる子どもが少なく限定的である	7.子ども同士の親密度が低い	8.自然や文化など体験的な学びがてきえる環境が少ない
proportion of ①&②	66.67%	55.56%	44.44%	55.56%
proportion of ③&④	33.33%	44.44%	55.56%	44.44%
tendency	BAD	BAD	GOOD	BAD
	9.様々な人生経験が乏しい	10.純粋で素直な子どもが少ない	11.学習意欲が乏しい	12.勉強習慣の定着が難しい
proportion of ①&②	66.67%	22.22%	77.78%	77.78%
proportion of ③&④	33.33%	77.78%	22.22%	22.22%
tendency	BAD	GOOD	BAD	BAD
	13.学力を初めとした競争意識が低い	14.好奇心が高く、物事に対する積極性が乏しい	15.地域と学校との関係が親密ではない	
proportion of ①&②	88.89%	44.44%	11.11%	
proportion of ③&④	11.11%	55.56%	88.89%	
tendency	BAD	GOOD	GOOD	

図 5 離島教員向けアンケート調査 (対象 9 名)

4 成果と課題

(1) コミュニケーション能力について

事前アンケートでは、いずれの項目でも、マイナスに捉えている生徒が多い結果となった。対して、事後アンケートでは、ほぼ全ての項目において、数値が上がる結果となった。このこ

とから本実践のような、離れた中学校間を、ICTを用いて繋ぎ、交流を行うことで、コミュニケーション能力の向上が期待できることがわかった。しかし課題として、本研究における一度の実践のみでは、コミュニケーション能力の向上に直接的な関係があるとは言い難いため、さらなる実践を重ねていく必要がある。

(2) 離島教育の実態調査 (成果○課題●)

○自然や文化を取り入れた教育がなされ、多くの生徒が、ふるさとに素晴らしさを感じている
○離島の教育環境を生かした、ひとりひとりに寄り添った手厚い学校教育がなされている

●競争心が育まれにくく、学力格差が見られる

●あらゆる選択肢や経験できることの制限

●人口が少ないため、交流の場が少ない

(3) 本実践について (有用性○改善点●)

○離島と本土というかけ離れた二つの中学校間において、交流授業を行うことができた

○生徒が互いに刺激となり、コミュニケーション能力向上への効果が期待できるものとなった

○互いの環境下での教育について、課題や利点に気づくことができた

●事前準備の充実及び効率化 (ICTの活用等)

●実践を行う前の生徒同士の交流の場の確保

●本実践のみでは、コミュニケーション能力の向上に繋がられたとは言い難いということ

(4) まとめ

本研究の様な取り組みは、極めて先行事例が数少ない。しかし、明らかにしようとする内容は、これまで長い間、日本教育が抱えてきた、大きな教育課題のひとつであると同時に、なかなか手をつけられずにいた内容でもある。この内容に対し、本研究を通して一度、形として実践を行うことができたことは、大きなことだと私は感じている。本研究での取り組みが、これからの離島教育の発展の、ひとつのきっかけとなることを私は願いたい。同時に、私自身がこれからも、こういった活動に率先し、かつ継続的に取り組み、離島教育の課題解決に貢献していきたい。

主な引用・参考文献

- (1)『離島における教育の実情と課題』（2005），原口ら
- (2)『コミュニケーション教育推進会議審議経過報告書 2001』（2011），文部科学省有識者会議
- (3)『看護教育における「コミュニケーション」の展開』（1996），阿保順子
- (4)『コミュニケーション能力の評価-評価者と尺度の文化的要因に関する実態調査-』（2001），小山慎治・川島浩美